

令和2年度大分支部歩こう会

コロナに負けず

大分支部歩こう会を令和2年12月5日（土）に開催しました。通常は春と秋の2回開催している歩こう会です。3月末に予定していた春の歩こう会は、幹事さんによる下見に基づいて綿密なコース設定をし、参加者募集も済ませておりましたが、新型コロナの発生を受けて中止のやむなきに至りました。

大分県内での発生が見られなくなった状況から、秋の歩こう会を12月5日に計画しました。春に計画していたコースと同じ「府内歴史散歩」です。参加者募集開始後の11月の中旬から県内でも第3波が襲来しましたが、屋内での飲食を伴うイベントではないため、今回は中止とせず、予定通りの実施となりました。

府内歴史散歩

集合場所はJR大分駅上野の森口。9時半の集合時間までに、3組のご夫婦をはじめ、参加申し込みのあった21名が全員揃いました。丸井弘美幹事の挨拶で直ちに出発です。

最初の目的地、若宮八幡社までは1.2km。高架鉄道の北側を歩きます。途中から日豊本線の旧軌道敷を大分市が整備した木製の歩道を進みました。参加者の多くは大分市民ながら、大半のメンバーにとって初めて歩く路でした。

若宮八幡社は大学10期の故園田孝吉さんが宮司を務められていた神社です。上野丘校舎時代、みんなが慣れ親しんだお宮でもあります。



近年整備された南蛮 VUNGO 交流館

参拝後、0.7km離れた南蛮 VUNGO 交流館へ。お願いしていた大分市観光ボランティアガイドの井本さんと山崎さんが迎えてくれました。2班に分かれて大友宗麟の功績や大友氏遺跡を紹介する迫力ある映像を鑑賞し、復元された庭園を見学しました。このあたりに大友館があったことは、鉄道高架化事業の発掘調査で発見されたとのこと。約 1 時間の見学を通して、南蛮交易都市府内の繁栄に思いをはせました。交流館の前で、今回も木山広喜さんに書いていただいた横断幕を掲げて記念撮影。ガイドさんも一緒に映っています。

万寿寺から遊歩公園

交流館を出て、井本ガイドさんの説明を受けながら万寿寺、来迎寺の傍を通過して遊歩公園を歩きました。江戸時代までの日本人の歩き方”ナンバ歩き“の利点を教わったりもしました。遊歩公園には最近、記念碑や銅像などがさらに増えたようでした。朝倉文夫の「滝廉太郎像」、「姉妹」、「みどりのかげ」、北村西望の「伊東ドン・マンショ像」などの像、「西洋音楽発祥記念碑」、「児院と牛乳の記念碑」、…、…。時間の都合で一部の説明しか聞けなかったのが残念でした。いつか時間をみつけてじっくり鑑賞して回りたいと思いました。

府内城址で解散

12 時に最終目的地の府内城址に到着。半数のメンバーは陽だまりで弁当を広げ、最終的に解散したのは 12 時半でした。貸切バスで往復するいつもの歩こう会に比べて短い半日のコースの行程となりました。

歩行距離 4.5km。同じ距離でも野山を歩くのに比べれば足にくるとの声もありました。大分市の最高気温は 13.9℃、風はなく、穏やかな一日でした。

大分市の中心部近くということもあり、今回は途中で抜けることも自由とできていました。街歩きの良さです。

